

## B 127 成人男子のパターン設計に関する研究

— 頭部及び肩・胸部の類型化について —

湘北短大 ○武藤治子 実践女大泉政 飯塚幸子

目的 私共は、成人男子のパターン設計を目的として、胸部、肩、胸部、頭部の形態について報告した。更に、これらの複合した形態について、主成分分析法を応用し、主要因子を抽出した。その結果、年齢の影響の大きい事が確認された。そこで今回は若年と老年のパターンの必要性に着目し、I群(20~29歳)とII群(30~59歳)別に、肩・胸部と頭部形態との関連における類型化を試みた。

方法 肩・胸部形態と現われる1要因として(既報)の胸幅/背肩幅と主成分分析の結果より主成分法で抽出された頭囲A-頭囲B, 頸椎高-頸窩高, 頸付根囲/脚囲, の4項目について、各平均値及び標準偏差により、3分類し、それぞれの組み合わせにより、21個体を分類した。

### 結果

1. 先の主成分分析の結果は、今回の類型化により、確認された。
2. I群12組, II群25組(1%以上出現)の組み合わせ中、両群に共通の組み合わせは16組である。従って共通に入らない組み合わせはI群に多く、その多様性が知られた。
3. I群の反身体型は、II群の場合と異なり、脚囲に対する頸付根囲の割合は大きい。